



支部だより

東北支部

第36回 万有仙台シンポジウム

はじめに

2025年5月10日(土)、東北大学100周年記念会館 萩ホールにて第36回 万有仙台シンポジウムが開催されました。本シンポジウムはMSD生命科学財団(旧万有生命科学振興国際交流財団)のご支援の下、1990年に第1回が開催され、それから長きにわたり、毎年春に開催されてきました。大変残念ながら、財団の活動終了に伴い、万有仙台シンポジウムという名前での開催は今回で最後となりました。ここで本シンポジウムの歴史を振り返るとともに、今回のシンポジウムについて紹介したいと思います。

万有シンポジウム

万有シンポジウムは、1989年札幌に始まり、1990年には仙台、次いで福岡でそれぞれ第1回目が開催されました。当時は、関東、関西に比べ、地方では著名な先生の講演会が非常に少ない状況でした。このような背景の下、地方の若手研究者や学生さんにもぜひ、最先端の有機合成化学研究に触れる機会を与えたい、という万有製薬(1989年当時)の鈴木國夫様と各大学の有機合成化学を研究されていた先生方の熱い思いにより3地区(札幌、仙台、福岡)において万有シンポジウムが開催される運びとなりました。本シンポジウムの大きな特徴は、講演会

後に開催される無料の懇親会です。参加者はこの場で著名な講演者と気軽に交流が可能となります。講演会だけではなくこれらの交流を通じて、有機合成化学の無限の可能性に啓発され、数多くの素晴らしい人材が育っていきました。またシンポジウムではポスター発表も行われ、学生さんによる優れたポスター発表にはベストポスター賞が授与されます。賞を受賞した学生さんはほかの地区の万有シンポジウムに招待され、3地区交流の一環としてそこでポスター発表を行います。このような仕組みも、学生さんのモチベーションを高める工夫になっていたかと思います。毎年、3地区合わせて1500名近くの参加者があり、有機合成化学領域の若手教育・振興に重要な役割を担ってきました。今年ですべての地区の万有シンポジウムがこの名前での開催を終えることになります。長年、ご支援いただきましたMSD生命科学財団にこの場をお借りして深く感謝したいと思います。

第36回 万有仙台シンポジウム

本シンポジウムは有機合成化学の多様な可能性という副題の下、6人の先生(野木馨介先生(中外製薬)、大宮寛久先生(京都大学)、神谷真子先生(東京科学大学)、伊藤肇先生(北海道大学)、長澤和夫先生(東京農工大学)、和田猛先生(東



京理科大学))にご講演いただきました。

いずれの先生方も最先端の研究成果に加え、学生さんへの熱いメッセージもお話しいただき、参加者の方は大変満足されたことと存じます。またポスターは他地区の受賞講演者3件を含め、24件の発表があり、非常に活発な議論が行われました。講演会終了後には例年どおり懇親会が開催され、参加者が講演者の先生方と活発に議論する姿が多く見受けられました。

おわりに

万有仙台シンポジウムは36回という長い歴史に今回で幕を閉じます。来年からは新たな名称でシンポジウムが開催されますが、若手育成のシンポジウムとして末永く続くこと祈念したいと思います。

[第36回万有仙台シンポジウムオーガナイザー
永次 史(東北大学多元物質科学研究所)]

© 2025 The Chemical Society of Japan